様式第６号

施策評価表

評価対象年度	平成 28 年度
１次評価日（課長等）	29 年 9 月 30 日
２次評価日（部長等）	29 年 10 月 4 日

１ 施策の概要

施策名	生活環境対策の推進				コード	7-3
この施策の主な内容（細施策）	（1）総合的な生活環境保全対策の推進　（2）野外焼却・不法投棄の防止					
第４次総合計画におけるこの施策の目的	大気汚染、水質汚濁などの公害防止については、監視体制の強化を図るとともに、野焼きや不法投棄など、日常生活に起因する事柄については、環境への影響を広く知ってもらい防止を図る。					
担当部課	部	市民環境部	課等	市民環境課	作成者	小河原義友

●施策の実施内容（DO）

２ 施策指標の達成状況

＊第4次総合計画における目標指標の達成状況（最終年度：30年度）

	施策指標名	単位	26年度 実績値	27年度 実績値	28年度 目標値	28年度 実績値	28年度 達成率	29年度 目標値	30年度 目標値
①	水質調査河川のBOD最高値	mg/l	1.9	0.9	1以下	1.2	#VALUE!	1以下	1以下
	指標説明								
②							#DIV/0!		
	指標説明								
③							#DIV/0!		
	指標説明								

３ 施策全体にかかる合計コストの推移

＊項目6より「直接事業費」「人件費」の合計を自動表示　　単位：千円

	26年度	27年度	28年度	29年度（予算）
直接事業費	2,072	2,952	33,578	2,819
人件費	4,400	4,400	4,400	4,400
合計コスト	6,472	7,352	37,978	7,219

●施策の評価（CHECK）

４ 施策の現状評価

＊28年度に施策の目的がどこまで達成できたか、施策の進行状況に関する順調／不調の判断

施策指標である水質調査河川のＢＯＤ最高値は、下水道の普及等により、低下傾向となっている。
不法投棄件数は、平成22年度に増加した後は横ばいとなっている。
生活に関する苦情の件数は、前年度に比べ大きな変動はないが、引き続き野焼きに関する苦情が増えている。
市が保有していたＰＣＢ廃棄物を適正に処理した。

＊岡谷市の現状のうち、この施策にとって強み／弱みとなる要因

岡谷市の強み	下水道の普及
岡谷市の弱み	農地と宅地が混在していることにより、農地での野焼きに対する近隣住民からの苦情が多い。

５ 今後の外部環境の変化

＊29年度以降に予測される社会・経済などの環境変化のうち、この施策に具体的に影響する要因

有利に働くもの	特になし
不利に働くもの	特になし

●改善の内容（ACTION）／次年度の計画（PLAN）

6 平成30年度　施策を構成する事務事業の方向性

●基本的な考え方

＊優先して実施する分野＝優先度がA・Bの事業：拡大する事業や新規事業の内容、優先的に実施する理由
＊見直しを行う分野　　＝優先度がC・Dの事業：見直しの内容、見直しや廃止をする理由

優先して実施する分野	生活環境の状況を把握するため、河川及び地下水の水質調査、自動車騒音の測定を継続して実施し、状況の分析を行う。 野焼きや不法投棄について、環境ボニターと連携しながら、環境に与える影響を理解してもらうため、市民への意識啓発を図っていく。
見直しを行う分野	特になし

●30年度の優先度

＊方向性が「継続」の事業についてA～Cを、「新規事業」の事業についてAをランク付け。方向性が廃止、完了、統合となっている場合は「-」を付ける。

直接事業費・人件費の単位：千円

No	新規事業	様式	実施義務	事務事業名	成果指標			直接事業費	人件費	妥当性	方向性	優先度
					指標名	単位						
							26年度	26年度	26年度			
							27年度	27年度	27年度			
							28年度	28年度	28年度			
							29年度	29年度	29年度			
1		内部	あり	生活環境対策事業	―	―	-	2,072	4,400	高い	継続して実施	B：現状維持
							-	2,952	4,400			
							-	33,578	4,400			
							-	2,819	4,400			
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
9												
10												